

乗馬キャンプが子どもの社会性に与える影響

鈴木 祥充（信州大学教育学部）

1. 目的

愛情を持って動物に接することは、人間関係を形成するうえで必要な資質である社会性の成長を促す効果があるとされ、動物介在教育が学校現場を中心に行われている。しかしながら、現代の子ども達の社会性は、減少傾向にあるとされている。乗馬キャンプは、乗り手と馬の意思疎通を必要とする乗馬を、コミュニケーションスキルの発達を目的としたキャンプ場面に取り入れている。

そこで本研究は、人格が形成されるうえで非常に大切な時期である、児童期、及び青年期の子どもを対象とした乗馬キャンプに着目し、子どもの社会性に与える影響を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

1) 文献調査

乗馬キャンプの基本的なねらいや、概要について調査を行った。

2) インタビュー調査

乗馬キャンプの概要を中心に、キャンプ中の参加者の様子、スタッフの声掛けについて半構造化インタビューを実施した。対象者は、公益財団法人ハーモニセンター事務所、及び同団体の事業所である蓼科牧場の職員、日本トレッキングの代表の計3名である。

3) 参与観察

インタビュー調査では得ることのできない、乗馬キャンプ参加者の様子を調査するため、参与観察を行った。対象キャンプは、2018年1月3~6日の3泊4日で行われた、日本トレッキング主催の、「第38回お正月初乗りキャンプ（参加者24名）」である。

4) 分析方法

インタビュー調査で得られた記録から、馬、参加者、プログラムに関するキーワードを抜き出し、分類ごとにまとめた。

3. 結果・考察

1) 乗馬キャンプをする意義

乗馬を通して、コミュニケーション能力を育むことが分かった。乗馬は、馬の気持ちを読み取ったうえで、乗り手の意思を伝えるために、適切な働きかけをしなければならない。初心者にとって

この働きかけが困難である。馬に対して主導権を取り、意思疎通ができるようになるまで、何度も失敗を繰り返す。この繰り返しが、思いやりのあるコミュニケーション能力の獲得につながる。

2) 子どもの関わり合い

乗馬キャンプの活動は、子ども達が主体となって進められるため、異年齢交流や障がい児と健常児の交流が盛んに行われていることが分かった。この交流をした子どもは、高い社会性を育む傾向にある。また、この交流の中には、必ず馬が存在し、子ども達が自然と協力し合うことのできる環境がつけられる。そして、先輩から後輩へ憧れのバトンが繋がる。

3) カウンセラー

カウンセラーはスタッフの中で、最も重要な役割を担っており、乗馬レッスンと生活面において、子ども達の一番近くで何が子どもにとって最善かを真剣に考え、寄り添っていた。カウンセラーもキャンプ中、子ども達と同様にもがきながら成長している。子ども達も、正面からぶつかってくるカウンセラーと向き合い、他の参加者や馬との関わりに積極的に臨んでいた。

4) 乗馬キャンプが子どもに与えること

乗馬キャンプは、子ども達に適度な負荷を与えていることが分かった。負荷がかかると、人は本能的に打開しようとし、また、いつも通りの状況ではないということから、起こったが印象に残りやすい。馬と関わる中で、恐怖や痛みを感じた時は、打開策を考えたり、本能で体が動いたりする。レッスンの場面や、朝飼いのために早起きした場面は、強く思い出として記憶に残っていた。

4. 結論

乗馬キャンプは、児童期、及び青年期の子ども達が社会性のある人格に成長するための助けとなっていることが明らかとなった。キャンプ中の活動が異年齢であること、馬との関わりが常にあることが大きな理由であると考えられる。また、乗馬キャンプにおいて、カウンセラーの存在が大きいことも明らかとなった。乗馬キャンプとは、参加者、馬、カウンセラー、の三者が相互に関わり合って子どもの心を育むものである。